

保存年限		文書処理上の記事		浄書		校合	
起案 昭和48年5月2日		決裁 昭和 年 月 日		施行 昭和 年 月 日			
市長 	助役 	収入役	部 課 係 職 名 農政課 氏 名 岩瀬 正 				
主 管 	部 長 	課 長 	課長補佐	係 長 	   		
合 議 	総務 	庶務 					

第3次 小野田少尉救出
活動 参加 報告書

上記救出活動に参加し その結果を
別紙の通り報告いたします。

海 南 市



第3次小野田少尉救出隊参加報告書

ルバング島に3名の日本兵が生息していることは昭和27年赤塚元一等兵の生還により明らかとなっていたが、その後島田元伍長が戦死し、又昭和47年10月19日赤塚一等兵が射殺された。ただ一人生き残った小野田寛郎少尉を無事に救出する為、政府は救出隊を島に送ったが、第1次、第2次共に不成功に終わった。

第3次救出作戦は過去の経験をもとに、心理学者の精神分析により、彼の警戒心を解きほぐし、学友や戦友の元に自発的に接近させるよう根気よく呼びかける作戦を主体とし、尚、効果のないときは強制捜索を行なうという第1期、第2期にわけて組み立てられた。

ルバング島は北緯13°50' 東経120°10' にあってマニラの南西約150kmにある面積約190km² 人口約10,000人の島である。

島民の生活は貧しく、農業(殆どが小作農)によって自給している。仕事がないので現金収入が得られない。

子供が多く平均家族で8〜9人位いるようであるが死亡率が高く50%近いようである。マラリヤやデング熱等は現在はなく、結核が多いとの事である。

気候は雨季と乾季がはっきりしていて、~~4月・5月~~6月・7月は猛烈に降り続け、~~8月・9月~~10月・11月・12月は定期的スコールがあり、以外の時期は殆ど降雨がないようである。私の居る2ヶ月間は一滴も降雨がなく、連日

快晴の日が続いた。

気温は4・5・6月は夏で、直射光下では50℃の寒暖計が一杯まで上り、日陰で37〜38℃位、夜は25℃前後で涼しい位であった。温度が高くて空気も乾燥している(湿度40%位)ので、日陰では暑さを感じないくらい快適であった。

ジャングルでの生活は想像していた程の困難はなく、毒ヘビや見ることは稀であった。むしろ、淮木地帯での蟻とみつ蜂の被害が多かった。野生の動物は、ワイルドキャット・山猫(小型のヒョウの種であるが人間に害はなく、ヘビやネズミ等を捕食するらしい)位で、鳥は多く、ジャングルの奥地でワイルドチキンがコケコッコと鳴いていた。奇妙な鳴き声の鳥が多く、さすが熱帯のジャングルだと思わせるものであった。その他、錦ヘビ、クロコグイル、等植物は、樹類と思われるものが多く、20〜40mの樹がまっすぐ伸び空を覆い、それらの樹に蔓性の植物がたくさん垂れ下っているのが特徴的であった。下層には大きな洋歯蘭や、2m位のヤシ類が群生し、トゲを持つものが多かった。展望が効かず困った。

ジャングルを縫う谷川は、比較的穏やかで、乾季にもかかわらず水量が豊富で、殆ど水位が変化してなかったようである。川にはエビ、臭・ウナギが多く、エビは上流の水溜りにも棲んでいて、乾季であるが山火事の心配はなく、火をつけ放しても延焼する心配がない。倒れて道を塞いでいる大木があると、それに火をつけ4〜5日するときれいな灰になっている。木には油気がなく水分

介が多い巻であろう

山麓地帯には バナナやマンゴー・ココナッツが多くナンカ等果物があるが何れも栽培されているものである。野生にもガバの実やパイナップル等定期的に食用になるものが多い。

丘陵地帯では雑木を伐採・焼却し雨季を待つてモミを蒔く陸稻栽培が多いが 平野部では相当広い水田地帯がある

家畜は、水牛・牛・馬・豚・鶏であるが犬も肉用として飼っている。そうである 水牛(カラバオ)は多く丸々と太っているが 宗教上の理由で殺す事が禁じられているそうである

海岸はサンゴ礁が張り出し素晴らしく美しい。特に島の南海岸は、山が迫り、無人地帯である。岩の上には天然の塩ができていた。

その他

シビリアンは子供の頃から腰にダロ(山刀)を持って居り、ボローで穴掘りから料理に到るまで行なう。重宝なものである。

川辺の光景風景は壮観で、家族総出のレクリエーションを楽しんでいるようである

48.2.13 海南島赴き一東京宿舎 (海南グループ12名)

2.14 東京 (厚生省に於て打合せ・諸手続等)

2.15 羽田空港ー台北ーマニラ バイビューホテル宿泊

2.16 ルバング島着 ビゴ本部に入る

2.18 入山準備 小塚ヒル 熊野支援拠点まで足なりし

2.19 第1期作戦に入り 熊野支援拠点に於て行動を開始。

熊野ヤ1呼びかけ・富士ヤ2呼びかけ・ヤ1接触デント・ヤ2接触デントに対する食糧や資材の補給・及び連絡を担当する

3.13 先発隊が引揚げた為、補給業務の他 熊野ヤ1呼びかけを担当 朝・晩の呼びかけをする

後続部隊のトレーニング兼調査プランを練る

3.18 後続部隊が入山 ヤ1呼びかけを岡野氏・伏山氏に引継

3.19 捜索隊に編入され ハビ山捜索隊に加わる

3.25

3.26 ビゴ本部に戻る ハビ山の痕跡調査

3.27 ビゴ本部での全体会議

3.28 小塚ヒル附近の捜索

3.29 午前中小塚ヒル附近の捜索

午後 捜索隊長会議 山口厚生政務次官来島

3.30 ビゴ川捜索隊長も案内して、ゴンチン山脈の概要偵察とキャンプ地の下見

- 3.31 ビゴ本部にて 捜索活動の為の装備の配分と休養
- 4.1 捜索隊が5班としてビゴ川上流に入る
(土坂班長と兵隊1名ンビリアン10名
が4班青貝氏と合同キャンプになる)
- 4.8 (4.6 マス基地近くで壺を発見)
小野田少尉氏 無事に未帰す。
- 4.9 山岳オコ隊に編入され、島の南海岸バライタンバン(海南拠点)に山越えする
- 4.10 バライタンバンとゴンチンオコ5テントとの間・425m
ピークを中心に捜索を行なう
(4.11 山の中腹で小野田父の海上からの呼びかけを
聞く。
- 4.12 船でバライタンバンを撤収 ビナカスを経由してビゴ
本部に帰る 全員ビゴ本部に集合する
- 4.14 クマノ呼びかけ上部に建設された小野田山荘の飾りつけ
に行く 最後の全員会議を行なう
- 4.15 ルバソグ離島ー マニラ バイビューホテル宿泊
- 4.16 マニラ市内観光
- 4.17 マニラー台北ー羽田空港 東京宿泊
- 4.18 海南・中野グループのミーティング
海南帰着、帰国報告、解散

以上の如く 日本人 延3000人、島民延12000人を動員し
連日連夜、懸命の捜索も空しく 小野田少尉の救出は不成功に終った
が、ジャングル内 いたるところにセットされた ビラヤパンフレット
・学友・戦友の手紙・写真など、いつかは彼の心を通じ、救出される
であろう事を期待し、最後にジャングルの麓 ハビ山山麓に「小野田
山荘」を建設し 日本の図書や 学友 戦友 はもち論 全捜索隊
員の寄せ書、父君の句、国旗や衣服などを残し 捜索は終了した。



48年 海南 10.00 和可山 12.00 東京 18.00
 ①
 2.13 東京
 2.14 東京
 2.15 東京 大阪空港 台北 マニラ
 ①
 2.16 マニラ ルバング島
 ①
 ビゴ本部

全員13名市長室に集合 市長はじめ多数の人々の激励を受けて出発。県庁では知事の激励を受け昼食を共にいただく 和可山駅でも多数の見送りを受け感謝する。東京エ野の法華クラブに到着 坊内議員のあいさつを受け 中野グループ・青年協力隊(通訳)とのミーティングを行なう 夜は池り端文化会館にて 晩さん会に出席 中野グループ・警視庁・厚生省・青年協力隊 等関係者の顔つなぎを行なう 法華クラブ 宿泊

14.00 全員集合し 厚生省に行く 諸打合せ・説明 旅券の手続等を行なう 18.00 市収入役・財政課長が到着 20.30 久保田議長が宿に到着する

5.00起床し バスで羽田空港 空港で記者会見し 壯途を祝す 8.35羽田を離陸 9.30大阪着 機内で約50分休憩 いよいよ日本を離れる 10.25 台北まで約2時間40分であるが 時差-1時間あるので 現地時間 12時10分 台北着(曇19℃) 全員一旦降りる 台湾の風景は日本と殆ど変わらず 田植をしていた。12.52 台湾発、だんだん暑くなってきた。フィリピン上空を飛行 紺色の海上に 点々と島が見える 14.40マニラ空港に着 入関は殆どノーチェック さすがに熱帯の陽光はまぶしい 快晴 29℃ 迎いのバスで Bay View ホテルに入る 夕食会は屋上食堂で 日本調と 現地調のミックス 珍らしい果物が特においしい。マンゴー・チョコネース・チョコ パパイアと初めて口にする スイカ・メロンは日本のものと 同じである 夜は毛布をかぶりないと寒い

ルバング渡り1便7.00 2便9.00 3便12.00の予定で あったので 早く起き準備をして待つ。我々は2便であつたが、なかなか出発せず、いろいろする 12.40やっとバスに 乗車空軍基地で待つ 14.00マニラ出発、すぐマニラ

2.17 ビゴ本部
 ① 小塚ヒル
 ビゴ本部
 2.18 ビゴ本部

湾口にある敷戦地 コレヒドール島の上空を旋回する 岸上に浮かぶ オタマジャクシのような小さな環礁は 夢の島 のようである マニラから約50分でルバング島である。島の 上空を3回旋回 小野田トクターから説明を受ける 15.10着陸 この時着走路をオーバーランしたようだ 島民に歓迎のレイをかけてもらう 高い香りの花である トラックで ビゴ本部着 竹とヤシの葉で立派な家が建 てられている(ニッパハウス) テント生活を予想していた私 には 快適な御殿のよう感じられた。 本部はビゴ11の11口で 約2000m²位の敷地に 20棟ほどの ニッパハウスやテントが建てられている 食堂・作戦室・浴場・便所・PX・圧療室・寝室・倉庫等 整備されている。電気も通っている。 夕食時 柏井団長の方針説明があり 20.00 作戦会議を行ない 各人員の配置が発表 された。 月日はまん丸く 盛んにコオロギの声 26℃ 快適に眠る

6.00起床 川に出て顔を洗う はじめのヤシの木を飲む うまい。 昨夜ハビが来たとの事で 捕まえてカゴに入れて いた。長さ2m 太さ径7cm位。 太陽は強烈だが 木陰は涼しく 暑さを感じない。 9.00 メルチオール官庁長官が来訪。 カラスや白サギが群れている 13.00 小塚ヒル(ジャパニーズ・ヒル)に参る 現地で色々と説明を聞く 14.45 全体打合せ会議を開く 救出活動方針の説明 電話器・通信機等の取扱 設備についての注意等々 17.00 競得班及び接触班の分科会 夜は 歓迎パーティが開かれ 市長等約30人の島民 が出席される アルコールが効きすぎた感あり

6.00起床 24℃ 6時55分ルバング島の端から白が 昇る 朝食後 ヘリコプターの輸送が右岸に始まる

① 熊野拠点

ビコ本部

テント設置の要領を説明する
13.00 全員 足取りしの森 熊野支援拠点に
登る この間はビコ川に沿って 殆ど川の中を歩く
ヒザ位までの渡渉が20回位ある
14.20 クマノ着 上部のハリポートまで登る
この上部に牛の死体が2頭あり 一つは比較的新しい
青貝・土坂・古梅氏と4人で ハビ山の隙の小さな
谷をクマノに下る 18.00 ビコ本部着 年寄組は
やや疲労の色
夜は空軍の楽団により、ダンスパーティ ～ 23.00
今日午後から 富士呼びかけのオ1声が始った

2・19 ビコ本部

熊野支援拠点

8.15 ハリ輸送開始 各拠点への資材と人員が
輸送されていく
昼食待機 すが輸送が間に合わず 人夫による
輸送を行なう シビリアン33人を連れて クマノ
拠点に向かう 14.20 クマノ拠点に着
ハリで 古梅・立花・土坂氏が到着 すぐに食糧と
寝具を持ち 上流に出発(15.15)させる・オ1テオグループ
15.25 同様に 谷村・高水・藤山のオ2テオグループが
到着 食糧・寝具も持って 上流に出発
オ2テオからはトランシーバーで連絡あり
両パーティ共 野宿する ランプを持って エビ取

2・20 熊野拠点

オ1テオ

オ2テオ

熊野呼びかけ

熊野拠点

5.50起床 エ坂氏が早朝から連絡に来て すぐ
シビリアン33人を連れ 物資補給 オ2連絡箱の
地点に整地 オ1テントを設置する
シビリアンを先に帰し 1人で歩く とても楽しい
すぐボツカの用意をして オ2テントを支援 整地設置
する ノ人でもう少し上流に登ってみる
尾川小学校生徒の手紙が置いてあったが 白に晒さ
れて黄変く変色している 谷歩きを楽しみながら
クマノに帰り 昼食 再びオ1テオにバッド等を
運搬する 古梅氏と土坂氏は早速行動開始
附近のバッドルに出ている

2・21 クマノ

富士

オ1テオあり

熊野呼びかけにより 設置手伝
18.00 クマノ拠点に帰り 川で体を洗う
夕食後 内地から持参して行つた オモチヤやタレ
を配ってやる シビリアン達は大喜びであった
動き廻ったので 食事はうまく 体調は絶好調
夜は涼しく快適である
クマノ支援拠点は ビコ川本流 添左岸の台地で
マンゴーの大木が涼しく 最も恵まれた好条件の
地である 班長井上氏 通訳 岡田氏 と和ら
3名と空軍の兵隊2名 シビリアン3名である
オ1テオ オ2テオ クマノ呼びかけ 富士呼びかけを
支援し 連絡を取る事が目的である

2・22 オ1テオ

クマノ

オ1連絡箱上部
交流調査

東島以来初めて雲が多い 鳥がたくさん鳴っている
立花・土坂両氏は 本部より 9.25 帰ったので クマノに帰る
新田記が来た
午 シビリアン1名連れて オ1連絡箱の上部交流を調査
ハビ山方面に登ってみる 16.40 クマノに帰る
少し疲れた感じ
夕食後 オ2テオ方面にエビ取に出かける

2.23 クマノ
①- ヤ1テント
ビゴ本部
クマノ
ヤ1連絡箱二部
の交流調査

5.50起床 6.10 本部より電話あり 山本ドクター 母危 等
との事で帰国する旨 早速この事をヤ1テント 古梅氏に
知らせる 古梅氏を連れクマノに帰り 一人で本部ま
で来る 山本ドクターにフィルムや手紙をこづける
朝食 クマノに引返し 昼食
シベリアン1人連れて 昨日の谷を調査 支那本谷を登る
15.00 岩小屋発見 木き火あり 古い痕跡である
16.50 ナカき一つひとつ クマノに帰る
夕食後 洗濯する

2.24 クマノ
① 富士補給
ヤ1テント
クマノ
ヤ2テント
クマノ

朝食後 町田・末次・高橋(警)氏一行到着
末次氏はヤ1テントへ 高橋氏とシベリアン2名を連れて
富士崎がけ補給 ハイベツチで富士着
高橋氏は富士小屋 シベリアン1名を連れて 富士小屋
すぐ南側の谷に降りる 伐木の伐採跡あり 木馬道
がある 相当奥地まで 島氏が入っている 野跡の跡多い
左岸から谷出合い小屋あり シベリアンのものである
ヤ4連絡箱あり この尾根に立派な道を発見
少し下ると 末次 高橋 古梅 土坂氏と会合
14.30 ヤ1テント着 立花氏に昼めしをこちそうになる
末次 高橋氏と一緒に クマノに帰る 15.30
16.00 末次氏ヤ2テントに泊る名で出発
夕食後 伝言あり ヤ2テントに連絡に走る
暗い中を クマノに帰る

2.25 クマノ
①- ヤ1テント
600高地
ヤ1テント
クマノ

5.40起床 朝食 シベリアン2名とヤ1テント補
給 古梅 土坂氏と3人で
ビゴ川を登る 8.25 出発 ヤ4連絡箱より右の
谷に入り 滝や沢の連続を縫うように登る
13.00 氷が切れ 13.20 稜線につき止める 電話線
あり 二れを右にたどると 13.30 600mの高地
14.30 下山 電話線に沿って尾根を下る 16.05
ヤ1テントに着 2名のシベリアンを連れて クマノに
帰る 洗濯し 記録の整理をする

2.26 クマノ
①- ヤ1テント

少し寒いと思つたら 21℃ 露が降りていた
午前中は雑用で過ごす 日本風にカボチャを煮る
昼食は好評 午後ヤ1テントに食糧補給
1週間分の野菜類 古梅さん疲れきり
山本ドクターの地下タビを届ける
団長が明日ヤ1テントに泊り ゴンケン越との伝言する
今日はやや湿度が高く(60%)不快 28℃

2.27

①-

○

2.28

①

6.00起床 20℃ 湿度84% 珍らしく雲が多い
9.15 団長 増田 川崎 シベリアン2名到着
1行はヤ2テントに向かう
11.50 団長が帰り 日本式料理に喜ぶ
15.00 団長・マスタ氏 ヤ1テントにおかけ 泊る

6.00起床 朝焼にている
井上・川崎氏 ヤ1テントに向けて出発 団長1行
古梅氏はゴンケンに越える
8.15 富士の補給に出发
9.30 富士着 10.10 1人で出発 尾根を南に
進む 11.50 460mのピーク 色鮮やかなワイルドチキンが
時々足元から飛び立つ 倒木で仲々進めず
木に登るか展望きかず 右に下る尾根に入る 予想通り
ヤ4連絡箱に 14.00到着 14.45 ヤ1テント着
ヤ1テントの上部 富士補給ルートに近い 日の丸の旗を立てる
16.50 クマノ着

3.1

①-

20℃ W84% 寒かった 町田・青貝・相川氏一行
登ってくる 相川氏はクマノ崎がけ 藤田氏と交番
町田氏は富士に登る
昼食後 青貝氏とヤ1テントに行く ヤ1テント下流の
谷を登る この谷は入口が小さいが中は相当に広い
いざなり沢と滝の連続である 約30分入ったところで
炊火跡発見 シベリアンのものではないらしい 写真とり 現場
を保存 16.55 青貝氏とクマノに帰る
青貝氏がクマノに泊る ウナギのカバヤキ エビをたぐさん

7

3.2 クマノ
① 富士呼びかけ
高原
カ5連絡箱
クマノ

25月滞在組未定の連絡あり

朝食後 青貝氏カ2テントに出かける ゴンテンから電話
8.30 1人2富士補給 1人で静かに歩くと色んな
鳥が見られる 10.00 富士着 新鮮なエビを料理
する。 10.30 フジ山北側尾根を歩く
10.50 39/70のピーク 大木に登り偵察 電話線は
右に下り新宮村へ 道を左にとりやがて草原
に出る 南西面を調査
12.00 すぐ足許から フクロウが飛び立ちびっくり
する この一帯は快適なルパン高原で 南側は
ゴンテン山脈を一望し 北側は 島の約半分の海
岸線が展望できる 素晴らしい散歩道である
下り途中から道が消えて猛烈なヤブ漕ぎとなる
13.30 小さな沢に落ち下り2人で 14.00 カ5連
絡箱に到着 14.10 クマノに帰着
水浴をし洗濯する
高橋寛史氏がヒナヨとラモスお連れ下山 岩穴を
調査し布切れを拾ってきた
兵隊の話し声が遠くから なかなか眠られず

3.3 クマノ
① カ1テント
カ2テント
クマノ

6.00 起床 20℃ W86% 涼しい
朝食 雨もなく快晴 9.00 高橋氏カ2テントより
クマノ着 9.30 高橋氏とカ1テントに向かう
途中カ1連絡箱より 牛の頭骨を調べる近くに
豚の頭骨あり キバを持帰る
カラバオ 3台で食糧が到着
カ2テント補給する 1人で谷の奥までさかのぼる
17.35 クマノに帰る 赤飯とスキヤキの缶を切る
うまい

3.4 クマノ
カ1連絡箱支
流左候谷

今日は本部で作戦会議がある為 各班長が乗り
ビッグ本部に下りて行く
昼食後 カ1連絡箱支流 左候谷の調査に出かける
14.00 カ1連絡箱 14.10 バナナ畑の谷に入る

8

7マノ
3.5 フ
① フジ補給
高原
クマノ
カ1テント連絡
クマノ

入口の小さい谷だが ジャンブル地帯に入ると大きく開き
と麓の連続となる 暫く谷を登り右側に巻くと尾根上に
立派な道を発見 これをどくぐり登る 伐木地があり
角材を拾数枚積んであった 尚上に登る 約400m
位まで登り時間が遅くなるので下返す
16.30 カ1連絡箱に帰り 豚と牛の骨を拾って クマノ
に帰る

昨日から呼びかけに戦友グループ 学友グループが交替で
加わる事になった
シビリアン1名連れてフジ補給 フジからカ2テント
山崎 土谷 柳氏とトランシーバーで話 意気さうしい
12.10 フジ山北側 高原の散歩する 月が涼しい
下りは相変わらず 津木漕ぎがひどい
15.10 クマノ、プールの上流 150m程のところに下る
16.00 カ1テントへ連絡に行く カ1テントの傍には
パイナップルの花が咲いている
今夜は各氏がカマノ呼びかけから懸命の呼びかけを行な
っている 詩吟がうまい

3.6 クマノ
① カ1連絡箱
ゴンテン山脈
レーダーサイト
ハビ山
クマノ呼びかけ
クマノ

高橋寛史 高橋章 谷村 テレス 岡田氏でヘビ山調査
1人で先日の尾根道を確かめに入る
11.00 出発 水筒に水も満ちし 尾根道に入る
12時 40分 ゴンテン山脈の稜線にある 標識を
立て 西にレーダーサイトに向かう 12.40
途中に昼食 13.50 レーダーサイトとヒナカスとの三叉路
右に下る フナが仕掛けてあり鼻をはね上げられる
この付近には 4~5ヶ所フナがあり 生活痕跡発見と嬉
しくなる 14.10 レーダーサイト着 手をあげると
兵隊が集まって 金網を用いて中に入れてくれた
どうやら ここは一般に立入り禁止だと言っているようだ
早速フナを見せると これは兵隊達がワイルドチキンと
とる為には掛けたものだろう。ガツカリする
14.50 レーダーサイトからすぐヘビ山に向き下山 猛烈なヤブ
漕ぎ 15.10 空谷に入る 雨もなく水が出てくる 15.26 空谷

との出合で、ケレン状に石をつんで古いたき火あとを発見
15.46 左岸から同じ位の流れが合流 ニニにサンミゲルの空ビ
石も三つ並べた新しいたき火あと カニのから 4~5分あり
石小屋 1人寝る位のもの 中にたき火あとあり
間もなくヤシ畑のはっきりした道とどくぐ下る
ハビ山が右手に見え ビゴ川最右岸の支流に下る
16.30 電話線を発見 これに沿って下る
16.40 ヤ19の連絡箱あり 小さな沢も三つばかり横
切り 17.25 クマノ呼びかけに出る
17.30 クマノに帰着

3.7 クマノ 朝食後 高橋章氏とハビ山の調査に出る。クマノ呼び
かけから電話線に沿ってハビ山北側の急斜面・洞窟を
調査。遺骨数井と土器陶器・サコを発見
①m ハビ山 ハビ山西側の支流をさかのぼる。昨日の岩小屋から
左岸谷に入りすぐハビ山麓線に出る。これを北に下り
最底鞍部を東に下る 水流が現れ 大きな流れに合流
ヤ1連絡箱 クマノ 16.00 ヤ1連絡箱に着
ヤ2テント泊 夕食 今夜はヤ2テントの高水氏が呼びかけ 留守番を
ハビ山で遺骨蒐集 留守番に行く 19.30 ヤ2テント着 谷村氏と話しながら
夜を過ごす。

3.8 ヤ2テント 8.00 クマノに帰る 本日は休養 昼寝をいゆつくり過ぎ
クマノ 古梅氏がラジオで呼びかけをする為に登る
②m 土坂氏はクマノ呼びかけをする為にクマノに泊る
土坂氏の呼びかけ サババングの歌を夢うつつに聞く

3.9 クマノ 8.40 出発 高橋章氏とハビ山周辺を調査
ハビ山麓で グリーンスネーク発見 枝から枝へ泳ぐ
①m ように早い 丘陵地帯をビゴ方面に歩く 14.40 ハイ
ウェイに出てトラックに乗せてもらい 15.00 本部着
クマノ 17.15 クマノに帰る 三日月が美しい

3.10 クマノ 今日陸軍記念日で 小野田少尉 谷村氏共に誕生日
との事である 先発組の帰国の日も近く 呼びかけは懸

富士呼びかけ ビゴ本部 命である。谷村氏と2人で富士に登る 8.10 先発ヤ2テントを
至由にジャングルに入る 直径10cm 長さ4m位のハビを
発見 思わず後退 10.10 富士に着 山崎氏が呼びかけ
クマノ に登り来ている。10.30 下りする 相川氏と3人ど高原を
至由に帰ることにする 高原のハイキングを楽しんだが 途
中から例によりヤブ帯 ビゴ川最下流の支流を下り
13.50 ビゴ本部に到着 昼食を ごちそうになる。
青貝氏が明日ハビ山に同行することになる
16.00 クマノ到着 谷村氏は強いがやや疲れてた
ようだ。夕食後 古梅氏が呼びかけの為に来る

3.11 クマノ 9.00 青貝氏クマノ到着 9.30 出発 ハビ山に向かう
0m ハビ山 9.50 ハビ山麓で 団長1人4名と合ふ 岩穴を調査
ヤ1連絡箱 支流の岩石片状流地帯に登り 再び水が現れる
クマノ 大がかりなエビ取跡発見 石岸ハビ山鞍部方面に
延びる沢をつめる かなりな踏跡とエビ取跡4ヶ所あり
19.20 鞍部に着 暫くコンチン山脈寄りに登り
東側の谷に入る 流れが幾つか合流して 15.35 ヤ1連絡
箱に出る 15.45 クマノ着 青貝氏が17.00 本部に帰る
夜は 相井田長が呼びかけを行なう 高水氏もヤ2テ
ントより来て呼びかけ 雨氏がクマノに泊る

3.12 クマノ 午前中報告及び便りを書く
0m ヤ2テント泊 いやいや 先発組が帰るので 撤収準備
夕食後 ヤ2テントに留守番に行く 高水氏と雑談
をして過ごす 半月が頭上に輝き 木の葉が月光に
映えて ホテルのように美しい

3.13 ヤ2テント 今日帰国して行く人達が多い ヤ2テントが閉鎖になる
0m 8.35 クマノに帰ると 大きなウサギを釣りに上げていた
クマノ 帰国者が続々とクマノに集合 1人きりになる
(先発隊引揚) 古梅氏にフィルムや手紙を托す
12.00 全員 乾飯 昼食 13.00 下山して行くのを
見送る。自分だけ 取残されたように 淋しいなる
後続者が来るまで 呼びかけを担当する。

クマノ呼びかけの近辺を整理 放送案文をつくる
18.30. 20.30の2回呼びかけを行なう

3.14
クマノ 5.50起床 雲が多くなった 6.30. 7.30 呼びかけ
バッテリーの充電を行なう エンジンがかかりにくい
オ2テント撤収 オ2テントに居た高木氏がオ1テントに土坂氏と合流し
オ2テントを撤収する
クマノ 18.30 19.30の呼びかけを行なう

3.15
クマノ 6.30. 7.30 呼びかけ
ヘビ山 9.10 青貝氏が登つて来る 青貝氏と共に後期計画の
ルバング高原 最の実地調査を行なう 9.30~12.00 ヘビ山西の
クマノ 支流 涸谷に入り 宿営地も決定する
昼食後 ルバング高原に登りゴンチン山脈のスケッチを
する 後続部隊はマニラに12.00頃
18.30. 19.30 の呼びかけを行なう

3.16
クマノ 5.50起床 21℃ 6.30. 7.30の呼びかけ
カラバオ2台で物資到着 食糧品類の整理
クマノ呼びかけ 海南グループがルバングに無事到着との事
期待の若手が来ていず がっかりする
18.30 19.30. 20.30 と3回呼びかけ 今夜は
呼びかけに寝る 月が丸くなり夜は明るく

3.17
クマノ 5.50起床 25℃ 雲が多い
ヘビ山本部 ベッドの傾斜で充分眠れず 6.30. 7.30
の呼びかけ エンジンもかけ バッテリー 充電
クマノ 右土坂氏と本部に下る 昨日マニラ空港で飛行
機が燃えたとの事である 海軍市からの送り物
手紙 頼んであった地下タビ等 全部燃えて
しまったとの事である 残念だが ケガ人が
おなかつたのが せめてもの救い
後続隊は着のり着たまゝの状態
海南グループと合流する 一行は小塚ヒルに出発
16.10クマノに帰る 18.30. 19.30 呼びかけする

3.18
クマノ 6.00起床 6.30 7.30の呼びかけ
オ1テント 午後から後続部隊が入ってくる 冷ムギで歓迎
クマノ 本部の食事にこれているので大変好評
平岡氏 新尾氏をつれてオ1テントに送る
河野氏 伏山氏をつれて クマノ呼びかけに登り 放送の
引継ぎをする
夕食後 書く 呼びかけのつき合い
手紙を書く 夜は満月

3.19
クマノ 6.00起床 今日から捜索隊に配属される
ヘビ山 ヘビ山での訓練である
レーダーサイト近く 手紙を和知氏に依頼する
ヘビ山 9.40. 一行がクマノに到着 ヘビ山隊は日本人7名
兵隊2名 シビリアン15名 総勢24名である
岡西テレビの記者と共に先に出発 ヘビ山麓 中央の丘
で取次 12.10 オ19連隊補給部の涸谷をキャンプサイト
と決定 シビリアンが早速小屋づくりにかかる
右 山頂を足ならしに上るが偵察 上流 右俣に入り
ナメ岩登りの連続は面白い かなり水量がある
右の尾根に登るとすぐ上部にレーダー基地が見える
14.00引き返す 帰りは尾根を左に 電話線のある
マンゴーの木のところまでヘビ山を展望し 15.20. キャン
地に帰る 18.00 夕食
枝の周から星を見ながら 石の上に寝る

3.20
ヘビ山 谷間で風の方が一定せず
ヘビ山麓 地下タビが破れて来たのが気になる 服を切つてソギを
当てる 昨夜は白本山岳協会派遣のメンバーが
ウスキーで帰るまで騒いだった
朝食 全員準備完了し 8.25出発 日本人/名に
シビリアン各2名をつれて ヘビ山麓 一帯を徹底的
に調査する 11.30 オ17メールボックスで合流
ちやうど田長 中上氏が視察に来る
12.00 昼食 14.00~16.50 再び山麓を調査
し 比ゴ本流に出 クマノ拠点まで戻り ヘビ山に帰る

		夜 投石事件あり 小野田少尉と云ってシビリアンが騒ぐ			
3.21	ハビ山	食糧 米がなく シビリアン3名をクマノに行かせる。午前中 ① 作戦会議 足元が危険な為 靴をはいた者だけ使う ハビ山洞窟 昼食後 シビリアン1人を連れて ハビ山の洞窟地帯 調査 ハビ山西面の最北端を担当する 岩登りを楽しまながら 無数にある洞窟を調査 コソモリが多い。15.20 ハビ山頂上 上部の洞窟まで 下山 青貝氏と鳥屋部氏は道を誤り クマノ側に下り 通り道を走る。夕食はソーメンをつくる	オ/テント クマノ ビゴ本部	ビナカス方面との三叉路よりゴンケノ山脈を稜を 東に進み 標高500mの地点より尾根をビゴ 側に下る。ここで支尾根に迷い込み 谷沿い下る 峻い谷となる。14.30 大きな流れと合流 15.00 オ/連絡箱に着 上流に登りオ/テント 行く。土坂氏と色々話を伺い 16.20 クマノ 着。休憩の後 17.25 本部に到着する 20.00 ミーティング 今月末の計画発表	
3.22	ハビ山 ハビ山北面 調査	少し風あり。風向不明 朝食後 ハビ山北面の岩場を調査する 昨日のコンビで 最東端を担当する 岩穴を調べたり 10.30 ハビ山稜線に着き 西に移動し 調査しながら下る 青貝パーティと一緒に ハビ山中腹を東端まで横断 12.25 ビゴ本部流し出。クマノまで 13.50 キャンプに帰る 今橋隊が寝床の痕跡を見	3.26 ① 〓 〓 〓 ハビ山 ビゴ本部	青貝、今橋、岩瀬、兵隊1名、デン他シビリアン1名 川崎通訳の7名で ハビ山の寝床を再調査 9.00 出発 ハビ山に直行 10.00 ハビ山下のマング ソリーから 10.30 寝床を写真と撮り 附近を入念 に捜索 柴を持ち帰る 水場で休憩 昼食 14.00 本部に帰る この報告書を作成する 夜は映画会があった	
3.23	ハビ山 ① 休養日	今日は休養日となり 写真もとりに上流へ登る シビリアン達は、エビヒカニ取に行く 手紙を書く	3.27 ① 〓 〓 〓 ビゴ本部	新宮地区の捜索隊が帰り、捜索部隊が全量揃う 14.00 全体会議で アラパン地区(小塚ヒル附近) の捜索 打合せる 夜は映画会あり	
3.24	ハビ山 ① レーダーサイト	8.10 出発 シビリアン2名を連れて 支流最上部を担当 8.40 最上部の谷へ 俣から左の尾根を展用に進む 10.00 ハビ山に続く尾根に登る 今橋隊、山口隊と 合流 今橋隊と共に レーダーサイトまで登ることとなる 猛烈なヤブ帯 10.40 レーダーサイト着 11.00 出発 青貝、鳥屋部パーティと合流 キャンプ着 捜索検討会を行なう	3.28 ① 〓 〓 〓 小塚ヒル 附近捜索	5.20 起床 6.00 朝食 今日から小塚ヒル附近の捜 索が始まる 7.00 ジープで出発 テリックの東マング の崖にシビリアン集合 班を分け 日本人3名 兵隊 2名 シビリアン10名 が5班に分れる 道路附近より小塚ヒル附近 テリック塩田地帯から 大阪ポイント附近を捜索 16.30 集合地点に帰る 塩田地帯には、蟻が多く 被害大 17.40 車で ビゴ本部に帰る 内地から救援物資 が届く スポン、茶、味噌汁の素をいただく	
3.25	ハビ山 ① レーダーサイト オ/連絡箱	ハビ山キャンプ撤収である。朝食 記念撮影 通訳と兵隊シビリアン全員をクマノ聖地でビゴ本部に 帰し 日本人6名は9.00出発 10.30 ハビ山の 寝床跡を調査 稜線をレーダーサイトに登る 11.50	3.29 ① 〓 〓 〓 小塚ヒル	6.00 起床 6.50 トラック出発、小塚ヒルから東 の谷を下り 上流に捜索する 午後から本部で 捜索隊長会議がある為 青貝氏と共に11.00 引返す	

附近捜索

山口厚生政務
次官補

11.00 小塚ヒルからトラック出発 ビゴ本部に帰る
日本より 厚生政務次官 山口氏及び 参院 社会労働
委員長 矢山氏が 激務の海未島 クマノ拠点より
ヘリコプターで帰り 本迎える
右 作戦会議 いく 聖域の捜索に入る為
1~10 班も編成 1~6 班は ビゴ川流域に
7~10 班は アカマヤン川流域に入ることになる
5 班担当となる

3.30

ビゴ本部

②

ルバング高原
展望台
富士呼びかけ
ビゴ川
オ1テント
クマノ

6.00 起床 朝食後 青貝 山口 今橋 大森 氏を
案内して ビゴ川 奥地の 展望する為にお出。
本部より ルバング高原に登る 足が揃っているの
とても楽しい 9.30 目的の高原台地着 クマノ拠
点から 井上氏 (オ6班長) が約束どおり待っていた
ゴシテン山脈を 展望し 説明 作戦を受ける
10.50 富士呼びかけ着 11.30 出発 すぐ ビゴ川
源流の谷を下る 5 分程下ると水が出る
12.50 オ4連絡箱で 昼食 13.50 オ1テント着
山口氏と キャンプ地 偵察 15.05 オ1連絡箱
クマノ拠点を 至由して 17.10 ビゴ本部に帰る
小野田滋郎氏 他 3 人が 蜂に刺され 顔手と腫らし
熱をだして 寝る
右足の傷が化膿してくる

3.31

ビゴ本部

①

明日からの 捜索活動の 準備と 休養日となる
9.30~11.00 作戦会議 15.00~16.00 会議
装備配分 夕食後 10 人 装備を 準備する
夜は 映画会 「かぐや姫」を見る
左足の傷も化膿してくる

4.1

ビゴ本部

①

クマノ拠点
オ1テント

6.10 起床 朝食 シビリアンが大勢集って来た
名を付けて 荷物を分担する 準備完了し 7.40
出発 8.55 クマノ到着 日本人は 土坂氏
と 2 名 兵隊 1 名 シビリアン 10 名 が オ5班である
9.20 出発 オ1テントを 至由して 10.20 キャンプ地

ビゴ野営地

着 早速 野営地 作りにかかる みるみる 整地され
台やバッドが 作られていく
10.50 青貝氏 鳥屋部氏の オ4班が到着 合同の
野営地となる 川中が広く 右岸に平坦な台地が
あり 快適な場所である 約 100m 上流には オ4連
絡箱がある 附近の 偵察
担当地区の 地図をつくる 山口氏 渡辺氏 (オ3班)
が 偵察に来る 左足の調子が悪く リンパ腺が 腫れる
川原の石の上に 寝る 夜は ケシ 暑かった

4.2

ビゴ野営地

①

ビゴ川右岸
捜索
発熱 休養

5.30 起床 6.20 朝食 7.20 シビリアン 2 名をつ連れて
出発 土坂氏と 別々の谷を登る 相谷である 8.45 稜
線 ケシ登り 別の谷に 近い 相谷を下る
他の シビリアンに 命じて 本流の 洲に 橋をつくらせたの
が 立派にできていた 土坂氏と 合流 キャンプに
帰る ケシ熱があるのか 頭が フラフラする
横になり 濡れタオルを当てて ケシ 眠る
午後から 休ませて もらい 休養する
土坂氏は シビリアン 4 名を連れて 出かけた
左右の足の傷が 化膿し 両リンパ腺が 腫れる
14.00 クマノから 和知 金森氏と デンが 訪問
青貝 パーティが 帰る
シビリアンが バッドを作った 石の上は 冷えるから バッド
に 寝ると云ってくれる 傷の 手当をいって 夕食

4.3

ビゴ川野営地

①

マス附近
捜索

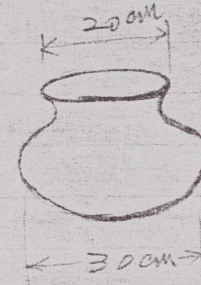
7.00 朝食 朝食時 柏井団長が見舞に 来てくれる
8.00 シビリアン 2 名を連れて 出発 オ4連絡箱の
尾根道を 登る 以前から 気がかりの 地点を 調査
9.50 480m 地点の 稜線に着
10.30 マス 拠点 (アカマヤン地区 支援の 為 新たに 設営された)
11.00 土坂氏と 分れて 谷を下る ハチの 大きな 巣が
あり 用心に 下る 13.00 谷の中程で 昼食
13.40 富士からの 谷を 出る 13.55 キャンプ地へ 帰る
夕食後 シビリアン 連と 歓談する
夜は ケシ 温度が 下る

- 4.4 ビゴ川野営地
① 右俣流域調査
- 7.30 シベリアン3人を連れて出発 昨日の右俣水量のある谷を登る。すぐ谷が二つに分れ2組に分れて登る。8.30 支流根に到着。少し待って別隊と合流し尾根を横一列に展開しながら捜索。480mに達する。マス拠点着。マス拠点の近くを再び谷に下る。15分程で水が来る。12.00 昼食。小まな枝谷を上下し調査しながら。13.35 キャンプに帰る。明日クマノで作戦会議の予報書。図面等の資料をつくる。土坂氏、フジ、新宮、テリック、ビゴを由りてツバ(ヤシ)を買って行き、団長よりお礼。関西テレビの藤田氏が訪問し泊る。夜はシベリアンと歓談。

- 4.5 ビゴ川野営地
① Ⅲ クマノ
- 今日はクマノ拠点で捜索会議である。シベリアンとでは休養日となる。8.30 青貝氏、土坂氏と共にクマノに向かう。オ/テトを至る。9.30 クマノ着。各班長が集合する。10.00~12.00 ミーティング。捜索状況の報告はどれも70~80%終了。小野田種次郎氏の来島スケジュール発表。南部(ゴンチン)地区の捜索計画について。山岳1隊・2隊・3隊のメンバー及び行動計画発表。クマノで昼の食食をし、13.00 上流に向かう。オ/テトで冷やぎをこしらえになり。14.05 ビゴ川キャンプに到着。洗濯や傷の手当てを行なう。

- 4.6 ビゴ川野営地
① 富士呼かけ
- 7.30 捜索に出発。富士に近き水量のある谷を登る。この谷を支流二本と本流を登りつめ。8.45 稜線。マスに補給する各の水タンクをテポにて。富士9.07着。昨日取って来たエビとウナギを補給。先着の土坂氏とマスポイント着。10.03 水・エビ・ウナギ補給。団長・井上氏一行と合流。10.15 マスポイントのすぐ下を展開して下る。11.00 谷出合で昼食。11.30 少し下流の水量豊富な右岸の谷を登る。

ビゴ川野営地



何かありそうな感じの谷である。12.00 水の切れた地点。(ここから上部はカラカラに乾いているが土の中から泉のように湧き出しかなりの水量である。附近はカゲで茶色になっている)左斜上10mの石の陰に壺を発見。この壺は比較的新しい感じで素焼。底は平たくて火にかけた跡あり。伏せて置いていたが少し破損していた。約30分間附近を入念に探したが以外の物を見せず。壺を持って斜約70~80mで稜線に上る。ここから16分で富士に着。ちょうどお茶の和知。二ノ宮氏が登って来れた。壺を富士に預け。13.25 伏山氏を連れて水場案内。そのまま谷を下り。14.35 キャンプに帰る。

4.7 ビゴ川野営地

① Ⅲ マス補給基地

ビゴ川上流

7.15 シベリアン3名と出発。未調査の谷を登る。日本の谷を上下する。9.24 稜線。9.27 昨日のツボの稜線。9.37 マスポイントで土坂氏と合流。増田氏共。壺発見地点を全員で再調査。10.07 着。フジから岡野氏が水浴に来た。~11.30 約10名で附近を徹底的に調査したが壺発見3m程下から古い空き缶10発見にとどまる。昼食。ここから少しフジ寄りの谷に入る。予想通り未調査の谷。13.15 フジからの谷と合流。すぐ壺のような特徴ある刺。伐木地点を至り。13.25 飯小屋の谷出合で土坂パーティと合流。13.45 キャンプ着。夜は温く蚊が多かった。

4.8 ビゴ川野営地

① Ⅲ クマノ

ビゴ川野営地

明日からゴンチン地区捜索の山岳3隊に編入される為。準備と休養。土坂氏がシベリアン7名を連れてキャンプ上部の谷に入る。ゴンチン方面の地図を作製。オ/テトから平岡氏が連絡に来る。小野田種次郎氏が来る等の連絡である。食糧が少なくなったのでクマノに補給の谷下る。14.30 ~ 15.20 着。補給と明日ゴンチン越の打合せを行なう。オ/テトを至り。16.55 キャンプに帰る。

- 4.9 波川野営地 5.50起床 朝食 撤収 7.30土坂氏と青貝
 パーティに別れて シベリアン2人を連れオ4連絡
 箱の尾根に登る 8.30.マスの稜線着
 9.03-560Mのゴンチン山脈主稜線着 600M高地に
 向かう すぐ電話線が現れ 9.30. 600高地着
 トランシーバーで 富士と連絡 おとり. 2人で山岳1隊
 2隊と待ち合わせる ゴンチン方面を偵察
 バライタンバン 10.40. 山岳1.2隊が到着 11.00出発
 (海南拠点) 一番右の尾根を下る 道はところどころ不明瞭となり
 予想以上に時目がかかる 12.25 ゴンチン川左俣
 に出て昼食. ちょうど捜索に来た小野田ドクター
 と土田氏に合う 13.00出発 13.15. 右俣に着
 着 コニに山岳1隊 オ2隊が合図でキャンプを
 置く 皆方に別れ ドクター・土田氏と 13.40 ゴンチン
 海岸に出る. 初めて海岸にまた 海は物凄く
 きれいである 13.55. 少し東寄りにあるオ5テント
 (ゴンチン接触拠点)に着. コーヒーをこちそうになる
 山岳オ3隊のキャンプは コニから2kmほど東寄りの
 バライタンバン (海南拠点)である
 山が通った狭い海岸や 椰子の砂浜を シベリアン2人
 連れてのんびりハイキングする
 15.50 バライタンバン着 山岳オ3隊 中島隊長 沼尾氏
 シベリアン9名は既に到着していた
 夕食 南海の夕焼は印象的に美しい
 夜は 連日海上から呼びかけをしている 海南グループ
 の上田・山田氏と歓談
 南十字星を見ながら 海岸の石ころの上に眠る
 (南十字星は期待が大きかったせいか 期待はずれ)
- 4.10 海南キャンプ 海辺の朝 7.20. シベリアン2名を連れ出発
 ① ② ③ ゴンチン近くの急な谷を登る. 波打際からいきなり
 420M付近 崖である 5M~10Mの境が続く 暫く登ると川が
 捜索 平靜になりやがて水が切れる 登りつめると 10.45
 425Mのピークにある 昨日中島隊長がコニを至由
 したが 378Mのピークと間違えて書いている

- 昼食後 ゴンチンオ5テントに通ずる尾根を下る
 ゴンチン拠点 約100M東寄りの海岸に下り 13.15.
 テントに立寄る ドクター夫妻を こちそうになる
 海岸を散歩しながら 14.40 キャンプに帰る
 昨夜附近で銃声がしたので 増田氏が調査に来た
 岩の上で夕日を待って写真を撮る
 夜は暑く裸で寝る
- 4.11 海南キャンプ 6.00起床 昨夜海岸の流木に掛けておいた靴下
 ① ② ③ 地下タビ. ポンチー スパッツ ホロ等が焼けてしまった
 420Mピーク 燃やして いた 椰子のカラが広く燃え広がったものである
 附近本流 ちょうど 中島氏が地下タビを1足持つていたので もらう
 捜索 7.30. シベリアン3人を連れて出発 昨日の東側の小さな
 谷を登る 10.50. 425Mのピークにある すぐ東の谷に
 下る 12.00. 水のある地点まで下りて昼食 グリーンステーキ
 再び上流の溜谷二本を上下に調査 14.30 滝の
 連続する中流で 小野田穂次郎氏の海ニからの
 呼びかけを聞く 捜索もあと1日 疾がでくる
 この谷はクロコダイルが多い 7~8匹逃げのぞける
 滝に隠れているクロコダイルを発見し 大騒ぎをして捕える
 1500M辺にある大物である キャンプに持帰る
 15.00 海岸 15.30 キャンプ着 疲れた感じ
 16.00~18.00 海岸を一人で散歩 帰国も近く
 石や貝 サンゴのかけら等を拾う
 夜はクロコダイルを喰う
- 4.12 海南キャンプ 7.30. シベリアン2名連れ出発. いま 捜索も今日が
 ① ② ③ 最後 準備の関係で午前中とする
 378Mピーク 昨日のクロコダイルの処から石俣が気に休んでいた
 附近支流捜索 この谷を上る 小さな谷下から水量がある 入念に調査
 舟でゴンチン 上部で小尾根を西に越し 別の谷を下る
 最後の捜索を終了して 11.00 キャンプに帰る
 海南キャンプ 既に全員が帰っていた
 昼食後 海水浴をする 南海のサンゴ礁は素晴らしい
 水族館 1つである 色とりどりの魚が泳いでいる

- 4.13 海南拠点
①mm ゴンテン
ビナカス
ビゴ本部
- 14.30 海南拠点撤収の舟に乗せてもらってゴンテンまで行く。ゴンテン海岸には、山岳隊1隊が2隊の金井、島屋部、渡辺氏が海水浴に来ていた。土坂氏に頼まれていた戦没者の慰霊碑の写真もとりに、石砂を拾う。
ドクター夫妻が引揚げ、増田、武部氏がオ5テントに残っていた。小石や貝サンゴを拾いながら一人で海南キャンプに戻る。
月は、おんおん大きくなって頭上におり、月光の椰子サウザングラスを写真にとる。
風がとっても涼しい。
- 6.00起床。舟の迎えが7時の予定が11時になる。
10.00昼食。舟が2艘来る。
11.00 いよいよ海南拠点ともお別れ。
11.20 ゴンテン着。風が強く波が高くなったので、山岳隊1隊2隊の大多数を3時に乗船。
12.00 ビナカスに到着。広い砂浜で、物凄く暑い。町を散歩したりして時間を過ごし、15.05 片便のトラックに乗り、15.45、ビゴ本部に着。
全員集結し、なにかい顔と合う。初め2顔を合わす人もいる。荷物を整理して早く眠る。
- 4.14 ビゴ本部
①mm ケモノ
小野田山荘
ビゴ本部
- 6.00起床 8.15、ケモノ呼びかけ基地の上部に建築された、小野田山荘に向かう。
1行は青貝氏はじめの報道関係、海南グループ約10名。
10.00 山荘の中に日本の図書や衣類、戦友、学友の寄せ書、父の句等をセツトする。
11.30本部に戻る。
17.00~18.00 最後の全員会計、部長の結果報告、夕食会。食後アサケ中佐の捜索活動のスライドを映写する。
ザックの荷造りおし。最後の夜もマンゴークの木の下で星を見て眠る。

- 4.15 ルバン島
①mm マニラ
バイビューホテル
- 5.40起床。トラックに荷物を積み込む。
6.40朝食。飛行機出発が例によって遅れ、かなり待たされる。11.20トラック出発。空港着。一番林組もまだ空港に残っている。
民間村をチャーターして、13.10 せつし ルバン 離陸。
10.50 無事マニラに着。バイビューホテルに入る。
シャワーを浴び、ヒゲをそりさっぱりする。
晩は屋上食堂で、晩さん会。
ホテルに預けていた品物を各自回収する。
- 4.16 マニラ
市由観光
①mm バイビューホテル
- 6.30起床 朝食。
マニラの市内観光をする。9.45出発。
サンチャゴ要塞、古い教会、大学等を巡って。
12.10 ホテルに帰り昼食。
12.55再び出発。郊外の観光地、タグイタイを見る。世界で最も低い火山ヒコリである。日本の観光団が来ている。
モンテシルパの刑務所を巡り、17.20ホテルに帰る。
夜はマニラホテルでの晩さん会で、民俗舞踊を見る。
- 4.17 マニラ空港
台北
東京
- 8.00朝食。急いで荷物をする。荷物を集積。
11.00昼食。13.00バスでマニラ空港へ。
空港でチェック。
14.40マニラ発のJALで、フィリピンを離れる。
途中、台北、大坂空港、羽田空港着。22.00。
(時差1時間おさずめる) 市役所友人等の出迎を受ける。
空港ロビーで厚生省援護局長、切代清士等の出迎を受ける。解散。
用意されたバスで上野の法華クラブに向かう。
- 4.18 東京
海南
- 9.00~10.00 海南、中野グループのミーティング。
12.20発。ひかり。
18.00頃 海南着。海南駅で知事市長、多数の出迎を受ける。代表の帰国報告。
市長室であいさつ解散する。

タダログ語

体

頭	オロ
目	マタ
鼻	イロン
口	ヒビツク
耳	タイカ
手	カマイ
口ヒゲ	ハルハズ
マソゲ	ケライ
毛	ホホツク
足	パー
尻	ココ
乳房	ソン
首	レイツク
肩	バレカント
ワキの下	キリキリ
びじ	シーコ

動物

エビ	ハボン (ヒボン)
カニ (川)	バルト
〃 (海)	アリマンゴ
大蟻	アソ
蚊	グヤン
鳥	ナモツク
ウナギ	エボン
悪魔	エル ELL
水牛	カンビーン
牛	カラバオ
馬	バカ
豚	カバリヨ
	バボイ

自然

山	ツオウツク
川	イログ (クリック)
氷	トウビツ
木	ガホイ
草	ダモ
石	バトラ
空	ラゲント
星	ヒトエン
月	ホフーン
太陽	アラオ
火	アホイ
花	ブラクラ Bolek
葉	タホン
木の根	オガット
夜	ガビ
朝	オマカ (ウマカ)
煙	オソツク
雨	ウラン

色

白	ポテ
黒	イテム
青	アノール
赤	プラ

見る、探る、テゲシラゲン

タガログ語

その他

妻・夫 アナフ
父 タタイ
母 ナナイ
兄 カパテイ
妹 デシーム

私 アコ
君 イカオ
男 ララケ
女 ババイ
処女 ララガ
子供 バタ
大人 マダンダ
友達 ガイビガン

ハイ オポー
イエ フラ

今日 ナヨン
昨日 カハポン
明日 ホカス
寝る トロツグ
終る タポス
毎晩 トエンガビ
昨夜 カガビ
大きい マラゲン
小さい マリーイ
長い マハバ
たくさん マラミ
切る タガ
走る タツクボー
少ない コンテ
死ぬ 倒れる パタイ
痛い マサキツト
痛ッ イライ

あいさつ

お早よう マガングン ウマガ
こんにちは マガングン タンハリ
おやすみ マガングン ガビ
ありがとう サラマ・ホ
さようなら パーラム
どうぞ トウコー
ごめんなさい パオマニーン
ありがとう・うまい マサラツプ

良い マガングン
ちょっと待て サンダリタン
我々は友達 タヨナン カイビガン
I LOVE YOU イ= イベ キタア
いくらか? マカノ

ライト リンテ
ローソク キャンテラ
靴 サパトス
靴下 メジヤース
水筒 カンティーン
コップ バン
ソーリ チエネラス
袋 サコ
ゴザ バネツク
タオル コモット
手紙 ソラット
ヒモ タリ
ベルト セントロン
銃 バレル
シャツ バロ
パチンコ テラドール
アメ玉 バラ

タガログ語

数

ココ
そこ
タバコ
家
砂糖
ミルク

デイト
ドーン
シガレリオ
バハイ
マタミス
ガタス

1 Isa イサ
2 Dalawa ダラワ
3 Tatlo タトロ
4 Apat アパット
5 Lima リマ
6 Anim アニム
7 pitong ピト
8 Walo ワロ
9 Siyam シヤン
10 Sampu サンプ

11 Labing isa ラビング'イサ

20 Dalawangpu ダラワングプ

21 Dalawangpu イサ

30 Tatlongpu タロングプ

40 Apat na pu
アパツナフ
50 Limangpu
リマングプ
100 Isang daan
イサン ダアン
101 Isang daan at isa
イサン ダアン アツ イサ

図略島ゲンバル



南シナ海



小野田元少尉は生きている

ルパン島搜索経過报告会

と き 昭和48年5月20日(日) 午後1時より

ところ 市立日方小学校体育館

小野田元少尉の救出運動に際し、市民の皆様方の御協力に深く御礼申し上げます。

先般、内海小学校に於て、小野田元少尉 救出市民大会を行つてより、ルパン島搜索2ヶ月あまり 未だ小野田元少尉生還の報なき現状であります、今般 その経過報告 市民大会を開き、搜索隊の現地状況報告や、ルパン島のスライドの映写、実際の呼びかけ 実況などを行う 搜索報告市民大会を開催致したいと存じます。

再び小塚さんの二の舞を演ぜしめることのない様、今後の搜索のあり方についても市民の皆様方のあたたかい御理解を仰ぎたく奮つて御参集のほど御願ひ申し上げます。

主催 海南市小野田寛郎救出運動連絡協議会

協賛 海南青年会議所

多数ご来聴下さい！

●当日駐車場 (市役所横広場)
(新町ビル裏広場)